城下小

主体的に関わり、学びを深めていく児童の育成

～児童の課題解決力を高める指導法の工夫を通して～　（３年計画の２年次）

校長　　木村　朋子

１　研究主題について

・教育目標具現化の立場から

本校では、教育目標の「心豊かに学び　たくましく生きる子どもの育成」及び努力目標の「進んで学ぶ子」を受け、「夢や志の実現に向け進んで努力する子」を目指す児童像として教育活動を行っていく。昨年度から主題を「主体的に関わり、学びを深めていく児童の育成」とし、児童の課題解決力を高め自らの夢や志の実現に向かって行動していくための基礎を培うとともに、課題解決の基盤となる情報活用能力を養うための授業づくりについて研究を深め、教育目標の具現化を進めていく。また立腰姿勢で話をよく聞かせることや特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを共通の取組としながら、児童が本時のねらいに確実に到達できるように努めていきたい。

・児童の実態から

本校児童は、１年次の取り組みの成果もあり、学年の発達段階に応じた１人１台端末の基本的な操作ができるようになってきた。インターネットで情報を収集したり、jamboard や Google スライドなどのアプリを活用したり、文字入力をしたりと課題解決をする上で学習の基盤となる情報活用能力の基礎が身に付いてきている。今年度は、学習に必要な情報・課題解決に必要な情報を探し出したり、共有して共に考えたりする場面で、身に付いてきた１人１台端末を操作する力を活かしていきたいと考えている。お互いに得た情報を共有し学び合う機会を設けることで、課題解決力を高め、学びを深めていく児童の育成を目指していく。

・これまでの実践から

これまで本校では、児童の課題解決力を高めることを目指し、情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な力「情報活用能力」を養うための指導法を工夫してきた。国語科をパイロット教科とし、１人１台端末を活用する場面を授業内に位置付けることで、児童は端末の使い方に慣れ、基本的な操作ができるようになってきた。今年度は、１人１台端末を活用する際、学習に必要な情報・課題解決に必要な情報を探し出したり、共有して共に考えたりする場面を授業内に設けることで、児童がより課題解決力を高め、学びを深めていく指導を積み重ねていきたい。教科の特性を生かして端末を活用できるように、今年度は教科を特定しないで研究を進めていく。

２　研究のねらい

主体的に関わり、学びを深めていく児童を育成するために、学習に必要な情報を取り出し課題解決のための手立てとしたり、意見を集約し他者とともに問題の発見や解決に挑んだりできるような指導の在り方について、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

児童が学習に必要な情報を探し出したり、精査したり、考えを共有して共に考えたりする場を設けることで、課題解決力を高めることにつながり、主体的に関わり、学びを深めていくことができると考える。

４　研究内容

⑴　情報活用能力を養うための指導の工夫

ア　ICT 機器の効果的な指導の工夫をする

⑵　特別支援教育の視点を取り入れた指導の工夫

ア　児童が考えたり理解したりする助けとなる視覚支援を工夫する

５　研究の経過

⑴ 研究仮説に基づく授業研究

月	日	題材名・授業者	授業の概要
6	20	第１回授業研究（５学年） 算数「整数」 授業者　　相内　悠理子　　教諭 助言者 八戸市総合教育センター副所長 松橋　祐哉 氏	公倍数の活用問題として、長方形をいくつか並べて正方形を作るという課題に取り組ませた。Jamboard 上での長方形の敷き詰めや２つの数直線で長方形の縦と横の長さの倍数を比べることで、自分の考えをもって確かめることができた。また、ICT 機器の活用により、他の考えを理解しやすくなるなど、意欲的に課題解決に取り組むことができた。
11	22	第２回授業研究（３学年） 体育「マット運動」 授業者　　大高　あい菜　　教諭 助言者　白山台小学校　教諭 小向　一樹 氏	後転をよりきれいに回るために、３人グループで互いにアドバイスしながら練習をした。動画に撮って見合うことにより、自分の後転する様子を客観的に見たり、きれいに回るためのポイントに着目したアドバイスをし合ったりし、主体的に活動をすることができた。後転のポイントが焦点化された絵や言葉が掲示されたことで、どの子も取り組みやすくなった。後転が前より上手くなったと実感したり、互いに認め合ったりすることができた。

⑵ 一般研修

月	日	研　修　の　内　容
４	２５	校内研究の進め方、指導案の書き方 １人１台端末活用研修　　講師：本校職員
６	２９	体育指導研修　　講師：本校職員
９	７	小・中 JS 特別支援教育(ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ研修会) 講師：八戸学院短期大学教授　野口　和也　氏
９	２８	危機管理(不審者対応)に関しての研修　講師：教育指導課　副参事　甲地　由樹　氏
１０	１９	１人１台端末活用研修　　講師：総合教育センター主任指導主事　石井　一二三　氏
１１	９	若手研修講座　　講師：教育指導課主任指導主事　福田　秀貴　氏
１１	３０	特別支援教育研修　　講師：本校職員

６　研究の成果

⑴ １人１台端末を効果的に活用することで、自分の考えをもって課題解決に取り組み、個別最適な学びにつながった。

⑵ 実技を伴う活動等の際には、１人１台端末を使うことで、客観的に自分の姿を捉え、課題発見や解決のためのポイントに気付くことができた。また、そのことは、課題解決に意欲的に取り組むことにつながった。

⑶ 板書、掲示物などの適切な視覚支援によって、情報や考え方が焦点化され、主体的に活動することが増えた。

７　研究の課題

⑴ 考えを共有していくには、本時のめあてがしっかりと共有されていること、自分の意見、立場をはっきりさせ、課題解決に取り組ませることが必要である。

⑵ 学習のねらいに則して、１人１台端末の活用かノートや具体物の活用か、よりベストミックスを考えた研究が必要である。

（記入者　　髙橋　康子）